

環境共生地域学特論 I (2単位)

担当者氏名 山部能宜

◆学習・教育目標

人文学と農学にまたがる学際的研究の一つの試みとして、仏教の環境に対するアプローチを考察する。仏教の理論的枠組みを概説したのちに、仏教のさまざまな伝統・分野における環境への取り組みを紹介する。特に日本の禅院における伝統的生活スタイルを環境の観点から見直し、現代に生きる我々が伝統の中から学ぶべきものを考えていきたい。受講者自身による調査・考察と、講義中のディスカッションを重視する。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

仏教思想

環境問題

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1	仏教の理論的枠組み	縁起・四諦	テキストの下読み
2	仏教の理論的枠組み	業	テキストの下読み
3	上座部仏教と環境	タイにおける実践例：Buddhadasa	テキストの下読み
4	上座部仏教と環境	タイにおける実践例：Dhammapitaka	テキストの下読み
5	上座部仏教と環境	タイにおける環境保護活動の理論的考察	テキストの下読み
6	上座部仏教と環境	タイにおける環境保護活動の現状	テキストの下読み
7	日本仏教と環境	空海の自然観	テキストの下読み
8	日本仏教と環境	日本仏教の自然観と「土地の倫理」	テキストの下読み
9	日本仏教と環境	日本仏教の自然観の思想的背景	テキストの下読み
10	日本仏教と環境	日本仏教における山川草木の意義	テキストの下読み
11	日本仏教と環境	空海と道元の山川草木観	テキストの下読み
12	仏教と動物	ジャータカにおける動物	テキストの下読み
13	仏教と動物	ジャータカの環境論的意義	テキストの下読み
14	仏教と動物	放生会の意義	テキストの下読み
15	仏教と動物	神社における放生会	テキストの下読み

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

Buddhism and Ecology /Mary Evelyn Tucker and Duncan Ryuken Williams, eds./ Harvard University Press (1997)

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

講義中に指示する

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウエイト）

平常点 50%. レポート 50%

◆その他受講上の注意事項

担当者による講義と、受講生とのディスカッションを組み合わせ、演習に近い形式の授業にする予定である。テキストは英文であるので、積極的に英文資料を読みこなし、ディスカッションに参加する姿勢が重要である。

